

瀬崎 YOYO 倶楽部の進め方

0. 発足の会での意見・疑問・要望

- (1) 活動に特徴を
- (2) 参加資格は
- (3) 自分探しの旅に方向づけしたい
- (4) なにかお役に立ちたいものだ
- (5) 自分が楽しいこと、健康であることが大前提

I. 会の名称

「YOYO 倶楽部」とする。「YO」は「YOUNG OLD」を意味します。

☆日本では、65~74 歳を前期高齢者、米国では、young old と呼びます。

- 「YOYO」と重ねたのは、響きからと、ヤング・オールド中の YO だという自負を示します。
- また、まだまだわたしたちの前途は「洋々だ」にひっかけてもよいのでは。

II. 会員資格及び参加の意義

- (1) (上記の 65~74 歳という) 年齢には関係なく、心身共に元気で自身を向上させると同時に社会のお役に立ちたいという気持ちを持ち、そのために時間が割ける人々。
- (2) 倶楽部の趣旨に賛同してくださる方々。
- (3) この倶楽部に参加することの意義を次のように考えています。
 - ① 自分の知識・経験が生かされる
 - ② さらにそれらを向上させることができる
 - ③ 世の中のお役に立っているという自負と誇りをもてる
 - ④ 自分たちの行動による成果が直接還元される
 - ⑤ 人の輪がひろがり、顔見知りが増え、そのことがよいまちづくりにつながる

III. 倶楽部の趣旨

会員同士の交流・情報交換さらには各種の学習を通して、自分自身と自分の生活を豊かにする、と同時に、世の中にお役に立てる道を探し積極的に行動(シニアボランティア)する。

最終的には、生活者中心社会の構築に貢献する。

IV. 活動の特徴

「ACTIVE」を会員のモットーとする。

- ACTIVE としたのは、「からだを動かす・健康第一」「アウトドア指向」「自分たちの意見・提言を外部に発信」「世の中に役立ち、自分たちにできることに積極的にチャレンジ」しようとしているから。

—イメージキャラクターは「三浦雄一郎」、御用達ビールは「ヤング・オールド・ニック・英」とする。

V. 運営

(1) 基本(その1)

- 自分が楽しい・楽しめるものであることを基本に (必要条件)
- さらに、他人が楽しんでいる姿をみて楽しむことも (十分条件)

(2) 基本 (その2)

「あそぶ」「まなぶ」「つくる」の三つの要素を組み合わせる。
 一基本的にはみんなで楽しみたい、それには、「あそぶ」が中心。しかし、折角だから
 なにかを外部に働きかけ、地域に新しい価値を「つくり」あげ、世の中のお役に立ち
 たい。その活動をより充実させるには、「まなぶ」も必要。

(3) 基本 (その3)

一点 (倶楽部中心) から、面 (他グループ・他地区との交流) へ、そして立方体 (年代や
 地域を大きく広げる。純生活者としての行政等への提言を行う)。

(4) 活動

① 定例会

意見・情報交換のために、月1回定例会を開催する。
 当月に誕生日を迎える会員がいる場合は、誕生会をおこなう。
 65歳を迎えた会員がおられれば、少し盛大に赤道まつりを開催する。
 会員による講義 (話) - 「まなぶ」をおこなう。

② 会費

正会員は定例会費用として、2,000円/3ヶ月を1/4/7/10月に納入する。
 イベント費用は、その都度実費精算する。

③ 活動項目 (あそぶ) (まなぶ) (つくる)

あそぶ	<ul style="list-style-type: none"> ○誕生会/赤道祭 ○ウォーキング ○YOYOオリピック (ダンス他) ○ゴルフ ○カラオケ ○グルメ会 ○花御覧の宴 ○新春を寿ぐ宴 		
まなぶ	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史探訪 ○料理教室 ○蕎麦打ち ○自ビール造り 	<ul style="list-style-type: none"> ○見学会 (工場、博物館 裁判所 自衛隊、皇居 市議会、国会等) 	
つくる	<ul style="list-style-type: none"> ○こども会サポート ○コミセン事業サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ○意見交換 (学生、市職員 市会議員) ○サポート事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康 up/事務局活動 ○地域力の向上 (教育・犯罪・環境) ○提言

④ 会員の約束一どこまでも絆を大切に

せざきYOYO倶楽部の活動

発表者
舟本 統

倶楽部の概要

- 設立：平成15年2月14日
- 目的：ヤングオールド（前期高齢者）を中心にその潜在力を顕在化し、地域に新しい価値を創り出す
- 経緯：瀬崎まちづくり市民会議の議論から生まれたアイデア（この層の人たちの持つ時間・健康・気持ちのゆとりは地域の資産、それを結集できれば、新しい風となる）。

倶楽部の運営

- 運営：あそぶ・まなぶ・つくる活動の組み合わせ。「楽しく/ACTIVE」がモットー。月例会+イベント（適時）を実施
- 会員：YO層に限定せず、趣旨に賛同する方々で構成。正会員35名。他に、賛助会員7名、準会員2名。他地区からも参加。
- イメージキャラクター：三浦雄一郎さん

活動状況

- 「つくる」一町のお役に
 - まちづくり協力（事務局活動、イベント参加）
 - 防犯協力（SBP事務局）
 - 学校協力（瀬崎中総合的学習支援）
 - 技能提供（網戸張替）
- 以上の提供時間総計-1,393hr/y

活動状況（続き）

- 「まなぶ」-楽しく学び
 - 会員講師の学習会（延べ14回実施）
 - 工場見学（外資、ANA整備工場を見学）
 - 各種教室（そば、ビール、料理教室を開催）
- 「あそぶ」-気軽に集い
 - 誕生会、新春を寿ぐ会、花御覧の宴
 - 各種行事（ウォーキング、グルメ、ゴルフ等）

今後の展開方向

1. アピールの強化
 - 趣旨を周知させ、会員の増大を図る
2. サポート事業の立ち上げ
 - サポートサービスを会員/知人/一般へと拡げつつ事業化し、財政的自立を目指す
3. 外部への発信
 - 純生活者・消費者としての提言を行う

助成金の活用

■ 要求額	250千円
1. 機材・備品費	90千円
(会員が70%半額個人負担、のほり20)	
2. 交通費(工場見学)	50千円
3. 報酬・謝礼	30千円
4. 会議費	30千円
5. その他	50千円
(印刷費20、通信10、資料10、事務用品10)	

参考；会員による学習会

- ①15.04.14. 国家予算について
- ②15.05.15. 健康家族せざき
- ③15.08.07. 環境問題
- ④15.09.09. 高齢社会
- ⑤15.10.09. 地産
- ⑥15.11.13. 報酬と通信
- ⑦15.12.11. 高齢者と交通災害
- ⑧16.01.15. 高齢者と保険
- ⑨16.02.07. シニアライブセミナー報告
- ⑩16.05.19. サポート事業
- ⑪16.11.11. 高齢社会(その2)
- ⑫17.01.13. 自分史をつくる
- ⑬17.02.10. イメージカラー：三浦雄一郎
- ⑭17.04.14. ヤングオールドとまちづくり

参考；プロダクティビティ

1. 市民会議事務局	4人×50分×5hr=1,060
2. SBP事務局員	総員会議120/箇所50/メンバー10= 180
3. YOYO田薬出店	15人×5hr= 90
4. 下校時ホール	5人×6分×1hr= 30
5. 瀬崎中総合的学習	6人×3hr= 18
6. サポート事業	5人×3hr= 15
7. 産・学・行7'0/こども77'/平成塾支援	=未カウント
	総計 1,393 hrs

草加市ふるさとまちづくり応援基金
助成事業実績報告書(平成18年度)

草加市長 あて

報告日: H19年 3月23日

団体名 **せざきYOYO倶楽部**

代表者名 舟本 統

事業完了日: H19年3月31日

事業費総額	(事業の実施や団体活動にあたり生じた費用の総額)	664,613 円
助成金額	(事業実施や団体活動のために使った助成金の額)	230,801 円
事業(活動)内容	(いつ、どこで何を行ったか)	
	「つくる」---各人の「健康」「時間」「特殊技能」に加えて「使命感」を生かし地域に新しい貢献の形・価値を作り出した。	
	☆市民会議及びSBP事務局機能、他団体サポート、地域イベントへの参加、提言「環境を考える」	
	「まなぶ」---会員各自の知識・経験を勉強会で共有し自己啓発を重ねた。	
	☆会員講師による勉強会、外部講師による研修会、つくばエキスポ見学	
	「あそぶ」---遊びの要素を重要視することで、個人のバリアを外し結束力をたかめそれを目的達成へつなげた。ポイントは毎月の定例会開催。	
	☆定例会(谷塚コーナ第三町会会館)、その中で勉強会・誕生会・ミニゲームを実施。「ヨールビック」を開始	
事業(活動)目標の達成状況	事業・活動の目標	
	ヤングオールド(前期高齢者)を中心とした人たちの潜在パワーを顕在化し、地域に新しい価値を創り出す	
	(当初の目標をどの程度達成できましたか)	
	◎計画に沿って着実な成果を挙げている。イベント参加者は会員外も含め急増。	
A.会員数 ; 目標 40名 -----実績(h19.2.現在)正会員39名、準会員8名、賛助会員8名		
B.「つくる」; 地域イベントへの参加、他団体への協力---延べ300名+α ☆市民会議・SBPの事務局機能(5名/W) ☆地域イベント<もちつき・フェスタin夏・盆踊り>への参加<田楽・ゆかりの販売>(38)、こども会のアシスト(11+α)、ふれあいで提言(オリジナル商品)<16>		
C.「まなぶ」; ☆会員講師&外部講師による勉強会<h18;7回-延べ25回>、つくばエキスポ<13>・国会等<5>見学		
D.「あそぶ」; 多様化-種目を増やす-----月次定例会(研修会・誕生会・ミニゲーム平均30名参加) ☆新年会<41>・お花見<27>・赤道祭<30>・グルメ会<47>・ヨールビック<229>他=イベント参加392名と倍増		

<p>事業(活動)成果</p>	<p>(事業を実施して生じた変化、成果物の名称、部数など記入してください)</p> <p>I。倶楽部の知名度が向上し且つ活動の意義が公的に認知された ☆倶楽部企画のイベントへの会員外参加者が多くなった。 ☆地域での新しい動き(例、通学路学童安全パト・コミセン清掃)があると、その実行に必ず期待が寄せられる。 ☆市のH19年度予算審議に倶楽部の活動が取り上げられ、こうした活動の全市的な展開が期待されている。</p> <p>II。人材として地域で活用されている ☆網戸・障子張替・プランター製作等に技能提供、こども会の活動(いも掘り・冒険遊び場)に時間提供した。 ☆地域活動にヘッドハンティング(例、町会会計、町会ごみ減量プロジェクトリーダー)されている。</p> <p>III。田楽・イカ焼きの味が評判である ☆地元のイベントに出店しているYOYO田楽・イカ焼きの味が評判。田楽は2.5時間で220食完売した。</p> <p>IV。オリジナル商品を開発・販売と同時に地域に「環境を考えよう」を提言した ☆「環境問題」勉強会(h15.8.7.)を契機に環境問題に関心と危機感を抱き、倶楽部から地域に提言した。 ☆従来の界面活性剤をつかわない肌と環境にやさしい石鹼「YOYOメルトソープ」にボディソープを新たにラインアップ。さらに、プランター・雑誌回収ボックスを加えたオリジナル商品をふれあい広場で販売した。</p> <p>V。会合が楽しみ、楽しかったの声が多い ☆結成丸4年を経たがマンネリ感がまったくない。毎回、楽しみに集まり満足して帰っている。 ☆ヨーリンピックを新たに実施。各人の得意技の向上と会員の濃密な人間関係の構築に役立っている。 ☆h20.2.ハワイでの5周年記念パーティー(宇宙祭・仮称)に向けて企画推進中。</p> <p>◎成果物 ☆活発な活動(の証明として、活動実績表及び毎回作成している議事録・報告書サンプル等を添付) ☆知識の共有化(「まなぶ」の実施状況一覧と直近に講師がした配布資料を添付) ☆オリジナル商品(YOYOリキッドボディソープのサンプルを報告会の席上にて委員に配布する予定)</p> <p>◎交流・広報 ☆市生涯学習市民会議(小野塚代表以下8名)と交流。情報紙「マイ・ステージ」11/20号に紹介される。 ☆市広報よりインタビュー。広報紙01/20号の「草加を創る人々」に活動が紹介される。</p>
<p>今後の事業(活動)展開の方針</p>	<p>(成果をもとに今後どのようにしていきたいかを記入してください)</p> <p>I。定常的な活動をさらに充実 ☆「あそぶ」一特に、昨年からの新企画である「ヨーリンピック」の種目を増やしたい。 ☆「まなぶ」一外部講師を積極的に招聘する。 ☆「つくる」一地域からの要望をさらにとりこむ。地域のイベントに積極的に参加する。 ☆味が評判の「YOYO田楽・イカ焼き」、肌と環境に優しい「YOYOメルトソープ」「YOYOリキッドボディソープ」に加えて、手作り木製のプランター「美しい街」、雑誌回収BOXの「資源くん」のオリジナル商品を拡販する。</p> <p>II。純生活者(消費者)としての提言 ☆倶楽部の最初の提言となった「環境を考えよう」をさらに推進する。 —H18は、秋に開催の「ふれあい広場」でブースを設け、「環境を考えようアンケート」と環境関連オリジナル商品の販売で地域にアピール。今年も実施の予定。</p> <p>III。次の事業の企画 ☆将来実施予定の「サポート事業」の調査・企画推進を図る。 —「そだてよう」助成3年の予定が2年で経理的な自立を確立した。次のステップ「サポート事業」には大きな資金が必要。十分な調査・企画・会員のコンセンサスを取得「うごかそう」部門に申請し実現を期したい。</p>

活動実績

せざきYOYO倶楽部

定例会

イベント

Table with columns for date, topic (議題), and content (内容). It lists various activities and events from February 2014 to February 2015, including regular meetings, seminars, and special events.